

◆◆現行計画でのまちづくりの状況◆◆



港区まちづくりマスタープラン 意見交換会ニュース

台場地区
No.3
2016.1.8

台場地区での第3回意見交換会を開催しました

平成 28 年 1 月 8 日 (金) の 18 時 30 分から台場区民センターで、港区まちづくりマスタープランについての台場地区での第 3 回意見交換会を開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



第 1 回意見交換会での「地区の魅力と課題」についてのご意見、第 2 回意見交換会での「港区は今後どのようなまちになっていくといいか」についてのご意見をふまえ、第 3 回意見交換会では、「課題解決や魅力推進のための取組」について意見交換しました。

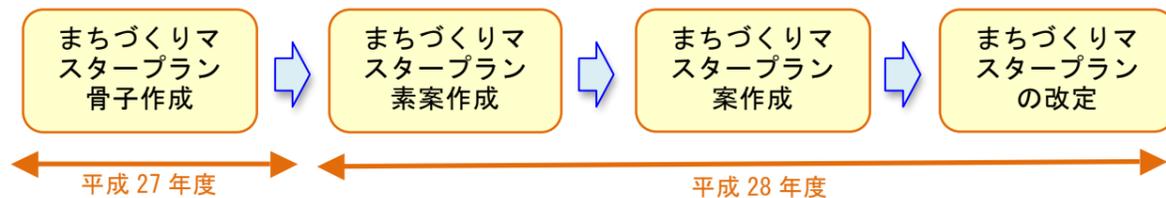
出された意見を模造紙にまとめ、最後に振り返りを行いました。意見の詳細は裏面をご覧ください。話し合いは 1 時間程度でしたが、意見やアイデアを出し合って、活気ある話し合いになり、時間通りに終了することができました。

今年度開催した全 3 回の意見交換会においていただいたご意見をふまえて、まちづくりマスタープランの改定骨子を作成しています。

改定骨子が出来上がりましたら、区民の皆さんのご意見を広くお伺いするパブリックコメントの募集をします。来年度は、改定骨子を基に素案、案を作成し、平成 29 年 3 月改定を目標にしていますので、今後も引き続きご協力の程よろしく申し上げます。

◆◆まちづくりマスタープランの改定スケジュール◆◆

まちづくりマスタープランは以下のようなスケジュールで改定する予定です。



まちづくりマスタープランや意見交換会について感想やご意見などお寄せください！
 また、意見交換会への参加者を引き続き募集していますので、ご希望の方はご連絡下さい。
 港区 街づくり支援部 都市計画課 街づくり計画担当
 TEL 03 (3578) 2235、FAX 03 (3578) 2239
 〒105-8511 東京都港区芝公園 1-5-25 (港区役所本庁舎 6 階)

まちづくりマスタープランとは

- おおむね 20 年後を目標とするまちの将来像やまちの基本的な方針などを示すものです。
- 区全体のまちの将来像と地区別の特性に応じたまちづくりの方針で構成されています。
- 都市計画や建築、交通などのハード面に限らずバリアフリー、子育て、緑、環境、防災、防犯などのソフト面を含めた計画です。

意見交換会とは

- 地区ごとに開催し、区民の皆さんからきめ細かな地域の情報や実情などを伺い、その地区の課題や計画内容について話し合う会です。
- 平成 27 年度に予定していた意見交換会は、今回で終了しました。平成 28 年度の意見交換会の開催については現在検討中です。開催が決まりましたら広報・HP 等でお知らせいたしますので、ぜひご参加ください。

台場地区で行うべき様々な取組のご意見が出されました

※意見交換会の内容を要約・整理して掲載しています。

住みつづけられるまち？

- ・元々台場に住んでいて、一回他のまちに引越してから、また戻ってきて住んでいる方も多い。
- ・台場は、住みやすく、こじんまりとしたコミュニティが良い。
- ・台場は子育て世代にとってはとても住みやすいまちである。逆に子育てを終えた世代は、家賃が高いなどの理由で住み続けることが難しいのではないかと。そのため住民の高齢化はしないと思う。
- ・家賃が高いという面では、若い人もなかなか住めないと思う。住んでもらうためには、家賃補助などの支援の仕組みが必要である。
- ・台場の方向性として、住みつづけられるまちを目指すのか、それとも住みたい人が住みたい時に住める新陳代謝のあるまちを目指すのか考えていく必要がある。

コミュニティの形成

- ・狭いコミュニティが欠点になっている場合もあり、まとまりが無い。
- ・町会や自治会といった仕組みが成り立たないまちである。
- ・若い人が自治会長をやっている。

交通を便利に

- ・レインボーバスは生命線である。何とか残して欲しい。
- ・バスがないと、品川や田町には行かなくなる。
- ・最近ではバスやゆりかもめよりもカーシェアを利用している。とても便利である。

台場のインフラは安全である

- ・津波による浸水や液状化については、台場は安心である。まちづくりの方向性に記載されているが、台場地区にはそぐわない。
- ・それよりも、高い建物が多いので、集合住宅の揺れへの対応など、特有の課題がある。

防犯・治安対策

- ・道路や歩道は広くて良いが、夜になると人が無くなり、暗くて危険な場所がある。
- ・道路が広いので、夜中には走り屋が車を暴走させていたり、路上駐車が多かったりしている。対策が必要である。

水上交通の可能性

- ・日常の足には使えないと思う。
- ・災害時に利用することも難しいのではないかと。

帰宅困難者対策は不可欠

- ・台場は、観光客が多いため、災害時の帰宅困難者対策が必要不可欠である。
- ・東日本大震災(3.11)は平日だったため、あまり大事にはならなかったが、観光客や来街者が多い休日だったら危なかったかもしれない。
- ・帰宅困難者の受け入れ体制ができていない。企業は基本的に社員のみを守るスタンスであるため、帰宅困難者は露頭に迷うのではないかと。
- ・帰宅困難者を受け入れてくれるオフィスビルや商業ビルは少ない。
- ・観光客や来街者、外国人等に向けた防災情報の発信システムを構築する必要がある。

都会ならではのビューポイントを保全

- ・台場から、東京タワーも東京スカイツリーも見えるが、高層ビルが乱立しているため、徐々に見える場所が少なくなっている。
- ・逆に、昔、高輪からお台場の花火大会が見えたが、今はあまり見えないらしい。
- ・これから新しい景観を形成するよりも、今ある景観を保全していくことが大切である。
- ・都会ならではのビューポイントは残して欲しい。それを目当てに観光客も来る。

外国人（観光客）に向けた対応を

- ・民泊問題が、台場地区のマンションで起きている。1部屋に何十人も泊まっている場合もあり、近隣住民が迷惑している。
- ・住んでいる人も、観光客も、お互いに気持ちよくお台場を楽しめるような対策が必要である。外国人向けの簡易宿泊所などを作ってみたいかどうか。
- ・外国人にとって、お台場は魅力があり、多くの方が来ている。無料の休憩所などが併設された観光情報ステーションがあると便利である。
- ・英語を話せる人を常駐させるなど、外国人に向けた配慮が必要である。

<地区のまちづくりの現状等>

